第17号 コーセン・はっぴーライフ 倶楽部通信

ごあいさつ

梅雨の晴れ間に見る青空が、ひときわ晴れやかに思えます。そして草むらに群れ飛ぶ蛍を見ると、この地方に生まれたことを本当に幸せに感じます。会員の皆様は益々お元気でお過ごしのこととお慶び申し上げます。当倶楽部もこの六月で三周年を迎え、皆様に支えられながらここまでくることができました。心より御礼申し上げます。大山鬼さび砂舗装のお庭、お墓のリフォ！ムや、宮市地区でのたくさんのリフォ｜ム工事の発注に付きましてもあわせて御礼申し上げます。本年からは農業の未来を少しだけ考え、自然薯栽培をささやかながらスタ｜トいたしました、秋には何かしらの報告ができると思っていますし、会員の皆様にお分けできたらとも考えています。何かと厳しいことばかりのこのごろですが、会員の皆様のお力を少しずついただいて推進力の源としたいと思います。一層のご指導ご支援よろしくお願いいたします。

江府町にありますせせらぎ公園では、現在、蛍がたくさん飛び回って訪れる人々の目を楽しませ遠い郷愁の世界にひたらせてくれています。夜の８時から１0時くらいが見ごろです。

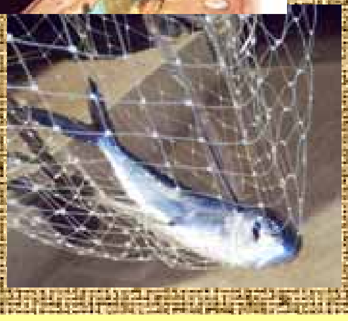
じねんじょ作り始めました！

大江社長による宅地指導です！

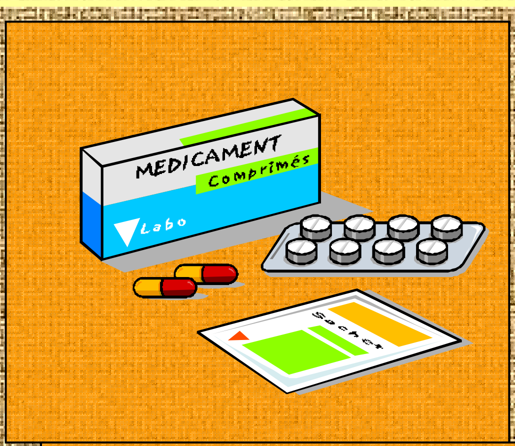
江府町笠良原、サントリ｜水工場のすぐそばで、地元農家大森彪様よりお世話いただいた畑でじねんじょ作りをスタ｜トいたしました。県内でも先駆者の（有）大柄組、大柄司社長様に指導をうけています。今年の出来具合では来年はもっと数量を増やします。

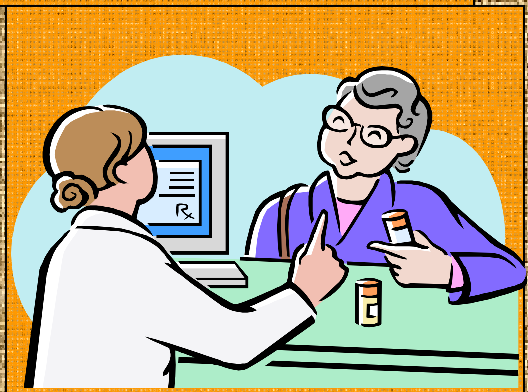
美保関 "だんだん" あご祭り

先頃、島根県美保関に「アゴ」掬いに参加してきました。当日は「だんだん」を歌う六子（ろこ）さんのライブや美保神社での大漁祈願祭などがありました。おかげで社長は初体験ながら９匹ゲットすることができました。（両手でアゴのあごをうれしそうににぎりしめているのが社長です）



豆知識シリーズ　社名の由来





（株）トクホン

最近のテレビＣＭでパリコレをもじ？てハリコレのコマ｜シヤルでおなじみの貼り薬メ｜力｜トクホンは、明治３４年鈴木由太郎が東京に「鈴木日本堂」を創業したのが始まりです。鈴木は、商売の秘訣は、①消耗する。②大量生産できる。③保存できる。④手軽に運べる。の４つで、これに当てはまる製品を手がければ、絶対に成功できると信じて良い薬を作り続けました。そして品切れにならないよう製品は５種類にしぼりました。こうして鈴木日本堂は、業績を伸ばしますが、大正１２年、関東大震災ですべてを失ってしまいます。しかし昭和２年に火で焙らず簡単に貼れる貼り薬（消炎鎮痛貼付薬）を開発し再起を計ります。この薬の評判がよく、鈴木はすぐに大量生産の準備を進め製品に名前を『トクホン』としました。これは、戦国時代、武田信玄の主治医であつた医者の神様と言われた「永田徳本」から命名しました。この人物は、身分の高い低いに関らず、誰を治療しても十八文しか頂かなかつた名医だそうです。永田徳本の生き方に感銘した鈴木はこの薬の名前を『トクホン』とします。

また、平成元年に社名も「株トクホン」としました。人々に恩恵を与える「徳」痛みや炎痛を「溶く、解く」にもつながつています。みなさんも４つの秘訣で何か作つてみませんか。

お墓のリフォーム

BEFORE

米子市内の小高い丘のすずやかな林の中にたたずむお墓におにさび砂舗装を施工させていただきました。車道から１００メートル以上はあると思われる急な坂道を全ての材料を担いで一生懸命歩きました・おかげで無事完成した時は施工メンバーいわく、「いつもより、汗をかいた分達成感を大いに感じました。」とのことです。

AFTER

BEFORE

こちらは境港市内のお墓に「おにさび砂舗装」のご用命をいただきました。この辺は砂地が多く、地盤をより安定させる必要がありましたが、当社の特殊技術により安全確実に下地安定処理を施し工事を終了いたしました。ご両家のみなさまに、お礼申し上げます。

AFTER

お家のリフォーム

BEFORE

AFTER

現在、江府町宮市地区では下水道工事が最盛期をむかえています。そしてこれにともなうトイレ、台所、風呂の接続工事もたくさんいただきました。紙上を借りてお礼を申し上げます。写真は当クラブの会員様で神社の宮仕様のお宅です。宮仕様は現在お脚の調子がお悪いため、通路や手すり又、便座も十分配慮したものを計画設置し、たいへん喜ばれました。

祐生出会いの館

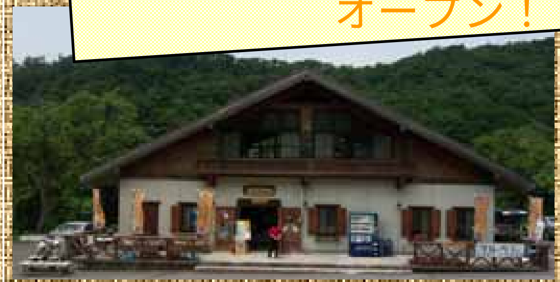
湖畔にたたずむ、郷土玩具と孔版画の博物館。祐生出会いの館を紹介します。鳥取県西伯郡南部町下中谷（ちょうど緑水湖あたりです）にあり、館内には祐生のコレクション（郷土玩具）や孔版画といった展示物が置かれています。孔版画とは、ガリ版を使用して版画を作る方法だそうで、今ではほとんど見られなくなったものなんだそうです。

板　祐生

祐生は、明治２２年に西伯郡東長田村（現南部町）に生まれ、１５歳で代用教員となりそのかたわらガリ版利用の孔版画の製作をはじめました。そして独自の技法による、つぶし孔版、切り抜き孔版を創作しました。生涯の大半を地元の小学校教師として過ごし、学校は居間でもあり、こうした暮らしのなかでライフワークに打ち込み昭和３１年に６６歳で亡くなられました。伝統工芸や昔からの技術が失われかけている今だからこそこの素晴しいものを若い人や１００年後の人達にも伝えていきたいですね。皆様もぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

ブナの森からオープン！

江府町御机の奥大山スキー場の向かい側に、地元で美人と評判の女性２人（川上輝子さん・川上留美子さん）が代表で喫茶店「ブナの森から」をオープンしました。地元農産物を使った手作りの料理が自慢です。今のところ土、日祝日と水曜日に開店です。「てるちゃんの大山おこわ」にそば他６品付の定食や、手作りカレー、デザートにブルーべりーヨーグルトとコーヒーがおすすめです。ぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



この倶楽部通信に対するご意見・ご感想がありましたらどんなことでもお気軽にご一報ください。今後の倶楽部通信にどんどん取り入れてゆきたいと思います。

連絡先　コーセン・はっピーライフ倶楽部事務局
ＴＥＬ　０８５９−７５−２１２４
川端まで